

9. 令和4年度埼玉県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

埼玉医科大学病院小児科・てんかんセンター 山内秀雄

まとめ

- 1) 令和4年度埼玉県地域連携体制整備事業埼玉県てんかん診療拠点施設埼玉医科大学病院が実施した、てんかん診療医療連携協議会開催、相談体制、治療体制、研修の実施、てんかんに関する普及啓発事業、後援事業について報告した。
- 2) てんかん相談体制としては、埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において5名のてんかん診療コーディネーターによる総件数271件の電話相談を行った。インターネットによる公開てんかん相談会「埼玉県てんかんなんでもウェブ相談会」を日本てんかん協会埼玉県支部との共催で2回開催した。
- 3) 治療体制としては、「埼玉県てんかん診療実態調査」を実施した。調査結果に基づき「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の改訂を行い令和4年度末までに埼玉県ウェブサイトにて公開予定である。
- 4) 院内のてんかん研修については、てんかんセンターカンファレンスを計9回、特別講演会を1回開催し、医師と臨床検査技師を対象とする小児てんかんカンファレンスを40回開催した。また、院外でのてんかん研修としててんかん診療支援コーディネーター研修会に2回参加した。
- 5) 一般市民を対象としたてんかん啓発事業として①インターネットによる配信による3つの講演（てんかん診療支援コーディネーター、脳神経外科医、脳神経内科医）からなるてんかん市民公開講座を令和4年11月12日に開催した。難治性てんかん・難病希少疾患についての一般向けの啓発イベント「難治てんかん・稀少難病疾患に関するポスター展示会」を2023年2月13日～28日に開催した。てんかんに従事する職種に対する啓発事業として埼玉県内小中高等学校及び特別支援学校の教職員・校医、市町村教育委員会及び教育事務所の職員を対象としたてんかん研修会を開催した。
- 6) コロナ禍のためインターネットによる事業開催が多かった。今後の課題としてIT技術面での改善や、講演などはくりかえして視聴・閲覧してもらうための工夫が必要であると考えられた。埼玉県全体てんかん診療のすそ野を広げ、てんかんの啓発の促進のためにひきつづき継続的に本事業を進めてゆく必要があると考えられた。

1. 緒言

平成30年11月1日に埼玉県てんかん地域連携体制整備事業に基づき埼玉医科大学病院は埼玉県てんかん診療拠点機関に指定された。その実務的な運営は主に埼玉医科大学病院てんかんセンターによって実施されているが、当センターは「学際的包括的連携による医療と福祉の理想郷を実現するため、高度なてんかん医療を提供する基幹施設として地域医療に貢献する」ことを理念とし、基本方針として、1) 患者さんの幸せのために安心して質の高いてんかん医療を実践し、地域医療に貢献する、2) 高度なてんかん医療を提供する地域基幹施設としての役割を果たし、関連施設との連携を行う、3) 人格的にすぐれ高い技能を持つ人材

を育成し、診療に役立つてんかん研究の推進に努める、として主に埼玉県内におけるてんかん診療連携とてんかんの啓発を大きな2つの行動目標としている。令和4年度に実施した事業についての報告を行う。

2. 令和4年度事業計画

令和4年度埼玉県てんかん地域診療連携協議会（協議会）は山内俊雄協議会長が議長を担当した。協議会委員は表1の通りである2022年4月18日に開催された同協議会では令和3年度埼玉県てんかん診療拠点機関事業の報告がなされた後に、令和4年度事業計画案が提案され審議された。その提案内容の概略は、①てんかん相談体制として「埼玉県てんかん診療相談マニュアル」に従い、てんかん電話相談を行うこと、②ウェブによる公開てんかん相談会を行うこと、てんかん治療体制として令和4年度版「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」を作成すること、③てんかん研修の実施として、てんかんセンターカンファレンス症例検討会（毎月1回）、小児てんかん外来カンファレンス（毎週1回）、てんかん診療コーディネーター研修会（年2回）を行うこと、④てんかん普及啓発事業として、てんかんセンターカンファレンス特別講演会開催（1回/年）、てんかん市民公開講座開催（1～2回/年）であり、審議・承認された。

表1

氏名	所属
山内 秀雄	埼玉医科大学病院 小児科教授・てんかんセンター長
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科准教授
永露 とみえ	埼玉医科大学病院 てんかん診療支援コーディネーター：看護師
柴田 禅弥	埼玉医科大学病院 てんかん診療支援コーディネーター：看護師
中本 英俊	TMGあさか医療センター てんかんセンター長
落合 卓	おちあい脳クリニック 院長
相川 博	大宮西口メンタルクリニック 院長
浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター 副院長
高橋 司	埼玉県立精神保健福祉センター センター長
丸山 浩	埼玉県川越市保健所 保健所長
福田 守	てんかん患者ご自身
高山 久男	てんかん患者のご家族
山内 俊雄	埼玉医科大学名誉学長・埼玉県てんかん治療医療連携協議会議長
丸木 雄一	埼玉県医師会常任理事会・埼玉精神神経センター
小松原 誠	埼玉県保健医療部 健康政策局長
根岸 佐智子	埼玉県保健医療部疾病対策課 課長

3. 実施内容

1) てんかん相談体制

①埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において「てんかん診療相談マニュアル」に基づき、5名のてんかん診療コーディネーター（永露とみえ、佐藤 祐子、柴田禅弥、菊山絵美、加藤加奈子）による総件数271件の電話相談を行った。相談内容としては、検査・疾患の診断に関するものが142件と最も多く、次いで専門機関での治療に関する

るものが107件であった。

②インターネットによる公開てんかん相談会「埼玉県てんかんなんでもウェブ相談会」を日本てんかん協会埼玉県支部との共催で2回開催した（令和4年9月24日、令和5年1月21日）。終了後に実施したアンケート調査では、大いに参考になった30%、参考になった60%であった。良かった点としては、てんかんに特化した相談会を公開の形で行ったこと、そらだん員が全員てんかん専門医（5人）であり、またそれぞれの診療科が異なるためそれぞれの立場からの意見が聞けたこと、インターネットで気軽に相談できたこと、などであった。改善すべき点として、音声や画像が途切れてしまうことがあった点、時間が1時間では短すぎる点などがあった。今後の相談希望対象としては①医療 ②保健 ③福祉サービス ④教育・子育て ⑤就労 などの相談をふくめたものにしてほしいなどの意見があった。

2) てんかん治療体制

①埼玉県内てんかん診療機関、治療レベル、診療連携状況を把握するための「埼玉県てんかん診療実態調査」を実施した。調査結果に基づき「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の改訂を行い令和4年度末までに埼玉県ウェブサイトで開催予定である。

3) てんかん研修の実施

①医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医学生を対象とするてんかんセンターカンファレンスを計9回、特別講演会を1回開催し、医師と臨床検査技師を対象とする小児てんかんカンファレンスを40回開催した（表2）。COVID-19感染拡大が継続していたが、インターネットを利用したハイブリッド形式による院内研修を行ったが、院内クラスター発生などがあり、開催を中止せざるを得ない事態も生じたが、ほぼ予定していた回数を実施することができた。②院外でのてんかん研修として2022年度全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回（2022年8月7日、12月11日）参加し修了証を授与された。

表2

開催日	担当診療科	発表者	司会	議題
2022年4月21日	脳神経外科	平田幸子	颯佐かおり	眼局性皮質異形成が疑われる過運動発作を示す一例
2022年5月19日	精神科	河合史彦	平田幸子	統合失調症との鑑別を要した発作後精神病の1例
2022年6月16日	小児科	颯佐かおり	山内秀雄	抗MOG抗体陽性脳脊髄炎に併発したてんかんの1例
2022年7月21日	脳神経内科	瀬尾和秀	渡邊さつき	免疫グロブリン静注療法中にposterior reversible encephalopathy synd
2022年9月15日	脳神経外科	平田幸子	横山立	MRI病変のある前頭葉てんかんの手術例
2022年10月20日	精神科	村田佳子	高富和彦	発作症状として頻呼吸を呈した側頭葉てんかんの一例
2022年11月17日	小児科	颯佐かおり・寺西宏美・村田佳子		左側頭葉に嚢胞性病変をもつ過運動発作の一例
2022年12月15日	COVID-19感染拡大のため中止			
2023年1月19日	脳神経内科	高野陽平	小児科	小児科からのキャリアオーバー後に重症に至った一例
2023年2月21日	特別講演会	菊池健二郎先生	小児科	菊池先生『てんかん重症状態に対する治療up to date』、平田先生「小
2023年3月16日	麻酔科	中山英人	脳神経外科	麻酔医からみたてんかん外科治療

4) てんかん啓発事業

①一般市民を対象とした啓発事業としてインターネット配信によるてんかん市民公開講座を令和4年11月12日に開催した。前半プログラムとしててんかんの発作時の対応についててんかん診療支援コーディネーター柴田禅弥（看護師）、女性のためのてんかんについて平田幸子（脳神経外科）、てんかんと混同されやすい立ちくらみや意識障害について光藤尚（脳神経内科）による3つの講演が開催され、後半プログラムとして質問討論を行った。参加者のアンケート調査の結果としては、大いに参考になった19%、参考になった69%の回答

を得た。内容については取り上げた内容が広がった、質疑の時間が不十分だった、などの指摘があった。技術的には映像が止まった、声が途切れた、などのトラブルがあったとの指摘があった。チャットによる質問については質問しやすいという感想があった。今後の希望として、講演のアーカイブ化、音声画像の質の改善についての意見があった。開催形式の希望については講堂などに集う方法が12%、インターネットによる方法が53%、どちらでもよいが35%であった。

②一般市民と対象とした事業として、埼玉医科大学病院内てんかんセンターおよび難病センター（埼玉県難病診療連携拠点病院）合同イベントとして難治性てんかん・難病希少疾患についての一般向けの啓発イベント「難治てんかん・希少難病疾患に関するポスター展示会」を2023年2月13日～28日に開催した。毎年2月の第2月曜日が世界てんかんの日に指定され、また2月末日が希少難病の日であることが開催期間の主な理由である。ASrid（注）より提供される希少難病に関するポスターパネル、てんかんセンターから難治てんかんに関するポスターパネル、難病センターから希少難病に関するパネルの院内提示を行った（図1）。

（注）ASrid（Advocacy Service for Rare and Intractable Diseases' multi-stakeholders in Japan）

<<https://rddjapan.info/2023>> <https://asrid.org/>

図1



③てんかんに携わる職種対象とする啓発事業として県内小中高等学校及び特別支援学校の教職員・校医、市町村教育委員会及び教育事務所の職員を対象としたてんかん研修会「現場で役立つ小児てんかんの知識 ～発作時の口腔用液ブコラムの使用法を中心に～」を開催した。参加者は266人（養護教諭189、学校医32名、管理職9、その他（教諭等）36）であり、おおむね高い評価を得た。

4. まとめ

令和4年事業計画で企画した内容をほぼ達成することができた。昨年度にひきつづき新型コロナウイルス感染症の影響で対面式による事業ができずインターネットによる事業が多かった。比較的容易に開催しうる面がある一方で、IT技術面での改善や、事業内容をくりかえして視聴・閲覧してもらうための工夫が必要であり、今後の課題と考えられた。インターネットのみでなく対面式の啓発活動も必要であり、来年度はそれぞれの優れた点を考慮しながら、埼玉県内におけるてんかん診療のすそ野を広げ、てんかんの啓発を進める必要がある。